

予 算 要 求 資 料

令和 4 年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 高山陣屋防火設備改修事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局 高山陣屋管理事務所 管理調整係

電話番号：0577-32-0643

E-mail：c21806@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 91,124 千円 (前年度予算額：104,566 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県債	一 般 財 源
前年度	104,566	52,283	0	0	0	0	0	47,000	5,283
要求額	91,124	45,562	0	0	0	0	0	41,000	4,562
決定額	91,124	45,562	0	0	0	0	0	41,000	4,562

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

高山陣屋は全国で唯一現存する郡代・代官所であり、史跡及びその構成要素である建物群は貴重な文化財である。現在、高山陣屋の防火設備として、消火器 30 基、消火栓 6 基、放水銃 5 基が配置されており、設備の耐用年数に応じて更新している。

一方、現在使用している消火栓と放水銃の配管は、前者が昭和 47 年度に、後者が平成 7 年度に完成しており、令和元年度までに前者が 48 年、後者が 25 年経過した。その耐用年数は 20～30 年とされており (「官庁営繕」等)、いずれも更新時期を迎えている。

また、現在設置されている放水銃 5 基は、高山陣屋のなかでも道路に近い場所にある御蔵などの建物への延焼防止を目的に設置されている。そのため、御役所や書物蔵などには水が届かず、その機能が十分であるとは言えない。

(2) 事業内容

上記の課題を解決するため、令和 2 年度に高山陣屋の防火設備の工事設計を実施した。令和 3 年度および令和 4 年度にかけて、設計をもとに防火設備工事を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1/2、県 1/2

- (4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	4,565	工事監理業務（国庫 1/2）
工事請負費	86,559	工事請負費（国庫 1/2）
合計	91,124	

※債務負担行為（2年間）限度額：108,600 千円

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県強靱化計画

(2) 国・他県の状況

- ・国宝・重要文化財（建造物）防災・耐震対策重点強化事業（文化庁）
→ノートルダム大聖堂の火災を契機とした緊急状況調査等を踏まえ、必要な防火対策、耐震対策に係る事業について補助を実施。
- ・栃木県足利学校（国史跡・復元建物有）
→放水銃・消火栓設置により、復元建物の全範囲の防火対策有
- ・岡山県旧閑谷学校（国史跡・現存建物有）
→放水銃・消火栓設置により、現存建物の全範囲の防火対策有

(3) 後年度の財政負担

- ・令和3～4年度に防火設備の工事实施予定。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・高山陣屋は県施設であり、県が事業主体となる。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 令和4年度までに老朽化した配管を更新し、かつ放水銃を増設することで、すべての建物に放水可能な状態にする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2年度	R3年度	R4年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R)	
①						%

○指標を設定することができない場合の理由

高山陣屋を維持保存するための環境整備であり、指標は設定できない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・防火設備改修工事設計 高山陣屋専門家会議において施設の保存修理において検討を行い、その結果を反映させた工事設計を行った。
令和3年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	2019年4月のノートルダム大聖堂、10月の首里城、11月の白川郷の火災を契機に、文化財の防火対策の重要性が顕在化している。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	現在設置されている消火栓等の防災設備は、放水範囲が施設全体を網羅していないなど、機能が十分であるとは言えない。事業の実施により、これらの問題の解決を図る。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	専門家会議で助言や指導を受けながら、効率的に事業を実施している。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>高山陣屋の復元整備事業が平成7年度に終了してから25年以上が経過しており、今後も計画的に改修を実施して老朽化・経年劣化等によるトラブルを解消し、安全安心な環境を整備していかなければならない。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>高山陣屋は通常年間約30万人の来館者があり、そのうちの約4割が外国人である。そして、世界最大級のロコミサイト「トリップアドバイザー」で三年連続エクセレンス認証を受賞するなど、外国人の関心も極めて高い。</p> <p>そのような評価を受けている施設であるからこそ、今後も継続した計画的な改修を実施し、安心安全な施設環境づくりを目指す。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	